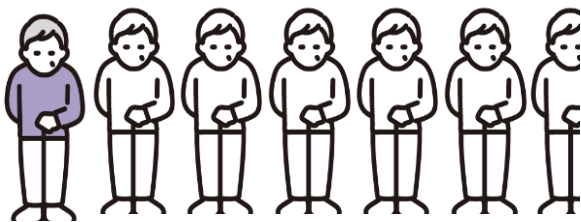




認知症は“他人事”ではありません!!

誰もがなる
可能性があります

2040年には 65 歳以上の高齢者の・・・



6.7 人に 1 人が認知症



3人に 1 人が認知症または
軽度認知障害 (MCI)

認知症になっても「できること」はたくさんあります。得意なことも好きなこともあります。だれもが「支え手」であり「支えられ手」なのです。

みんなが認知症について正しく理解し、『お互い様』の気持ちで支え合うことのできる地域をつくっていきましょう!

“認知症”について話しあってみませんか?

私たち健康長寿コーディネーター5名は“認知症地域支援推進員”です。

“認知症地域支援推進員”は、すべての市町村に配置され、「認知症サポーター養成講座」などで認知症についての正しい理解を広めたり、地域での支え合いについてみんなで話し合う場を作ったりする活動をしています。目指すのは、『認知症になっても、住み慣れた地域で、自分らしく「役割」をもって暮らし続けられる社会(=共生社会)』です!



住み慣れた地域で、
居場所や役割をもって、
自分らしく暮らし続けるた
めの支え合い(地域包括
ケアシステム)と同じだね



みなさん、こんにちは。川西圏域（新居浜・宮西・金子・惣開）担当の伊藤です。
♪ 担当として2年目になり地域でお話出来る人も増えてきました。そんな中、今回はある小地域の集まりに参加させていただく機会がありましたので、その時の様子を紹介します。

きっかけ

民生委員や自治会長をしているAさんが地域の見守りをする中で、地域包括支援センターに興味を持ち、相談に来られました。自治会単位で、地域を思う人たちが集まり、地域のことを気軽に話せる場を作りたい、ご近所の横のつながりを大切にしたいという思いを聞かせてくださいました。

Aさん自ら民生委員、見守り推進員、老人会、PPK体操参加者など、地域をよく知る人たちに声をかけてくれました！

もっと地域包括支援センターと連携強きたいんよ！



お茶でも飲みながらワイワイやろう！

どういことが相談できるん？

座談会



当日は健康長寿コーディネーターから、簡単なお話をした後、みなさんに自由に話をしてもらいました。
普段からの顔なじみの人たちばかりなのでご近所の話や、日頃気になっていること、悩みや不安など次々と話題が出てきました。また、自分や家族のことなども気軽にお話されていました。



自治会に加入していない人が多いんよ

近所の人にあいさつ、声かけしよう



座談会の様子

見守りに通ううちに最初嫌がっていた人にも、また来てほしいと言われるようになったんよ

社会資源のこと教えて

介護が必要になったらどうする？

今後のこと

集まってくれたみなさんは地域の人をととても気にかけていて、その思いが地域の支え合いに繋がっていることを感じました。
みなさんがこれからも安心して暮らせる地域であるように、健康長寿コーディネーターとしてお手伝いできればいいなと思います。
みなさんの地域でもこんなお話はありませんか。ぜひ、お気軽にご連絡ください。

